

ロシアのかたち(4)

松嶋希会*

8月頭、極東ロシアの中心都市ウラジオストクに行ってきた。ウラジオストクは、モスクワからすると飛行機で8時間強、鉄道で7日もかかる「東の極地」だろうが、東京からは2時間半ほどの飛行で到着するヨーロッパである。中国や北朝鮮との国境に近いが街並みに「アジア」の雰囲気はない。しかし、行き交う車の圧倒的多数は右ハンドルの日本車であり、街ではよく韓国製品や日本製品を見かける。

ウラジオストクは、極東では大規模都市ではあるが、人口60万人ほどの街である。極東全体では人口の減少が著しく、産業を興し人口減を食い止めることが、ロシア政府における喫緊の課題となっている。

その対策として、ロシア政府は、かつての閉鎖都市ウラジオストクをアジアへの窓口に発展させようと、いろいろな国際行事を打ち立てている。2012年にはAPECを誘致し、関連施設、巨大な橋、空港の新ターミナルなど大型インフラを整備した。2015年からは毎年9月上旬に「東方経済フォーラム」を開催し、特に周辺国の首脳陣や企業の参加を呼び込んでいる。日本首相も毎年出席しているが、今年は、中国と北朝鮮の首脳が招待された点が話題となった。2016年からは毎夏、国際極東音楽祭を催し、文化イベントでの観光客誘致にも熱心である。

そして、ロシア政府が何よりも誘致したいのは「投資」である。投資を誘致するための制度が次々と導入されているが、現在、制度内容もその有益性もわかりにくい。極東地域では、2015年に「優先的社会経済発展区域 (TOR)」や「ウラジオストク自由港」が始まった。ウラジオストク自由港は、「ウラジオストク」に限らず、内陸部を含めた極東地域全域に設けられた20以

上の地区に優遇制度が適用される仕組みである。また、地方自治体が地方レベルで投資優遇制度を設置していることもある。さらに、連邦政府や地方自治体と締結する特別投資契約制度が、2018年にリニューアルされ、改めて注目されている。これらの優遇制度は、適用要件や優遇内容が似ているが同じではない。従来の「経済特別区 (SEZ)」も極東地域では二か所(ウラジオストクとハバロフスクの地方)が指定されていたが、十分に機能していないとして2016年に指定が取り消された。極東地域の市場規模、大市場へのアクセス、気候条件などを考慮すると、成功するビジネスは限られてくる。ビジネスが成り立つのか慎重に検討し肯定的に評価できれば、どれか優遇制度を使ってみる、くらいの構えがいいと云われている。

最後に、極東ロシアへの投資はハードルが高いかもかもしれないが、まずは、ウラジオストクや極東地域の観光をお勧めしたい。今夏、ウラジオストクには東京からは毎日、大阪からは週2日、直行便が飛んでいる。極東ロシアに郷土料理はないが、海沿い地域は魚類、カニ、エビ、ウニ、ナマコなど海の幸が豊富で新鮮であり食が楽しめる。ロシアを東西に横断するシベリア鉄道はウラジオストクから始まる。鉄道での旅情を味わいながらシベリア地域のバイカル湖にも行くことができる。バイカル湖は夏も冬も美しい。カムチャッカ半島の氷河、火山などの大自然も観光名所となっている。ロシアは日本人に馴染みがないかもしれないが、すぐお隣にある。

* アンダーソン・毛利・友常法律事務所